

盛岡城址公園のイメージの構造について

岩手大学工学部 正会員 安藤 昭
 岩手大学工学部 学生会員 ○吳 尚道
 岩手大学工学部 学生会員 黒沢 誠

1. はじめに

今までの城址公園のイメージの研究に於いては、中学生・大学生を対象としたもので盛岡市民の総合的・一般的イメージに及んでいない。そこで、城址公園の一般的市民のイメージを創りあげようとした。

さて、イメージとは、この場合、記憶心像を指すものとする。また、地域的・経時的な相違により、イメージに如何なる差異が見出せるかを知らねば、本論の主眼とした。更に、学生という一定階層のイメージが全市民のイメージの中で、どの様に位置づけられるかを明らかにする。

2. 調査方法(市民のイメージ)

i. 調査地域

市街化区域内^を500mのメッシュで107個に分け、その中からランダムに7メッシュ(1西青山, 2緑ヶ丘, 3館向町, 4長田町, 5愛宕町, 6加賀野, 7南大通)を選び、各メッシュより平均37名にイメージ・マップを画かせた。更に、選が出された各メッシュ内で、ランダムに各家庭を訪れてサンプリングした。

ii. 調査方法

被験者に対して、盛岡城城址公園内とその周辺について知っているすべての物を西洋紙に図示させ、更に公園と思われる区域を実線で囲ませた。また、調査に要した時間は約80分であり、それより速く仕上がる者については調査データを回収し、その時間内に書き上げられぬ者でも80分を限度として回収する様にした。

iii. 被験者

選ばれた7メッシュ中に在住する満15歳以上の人263名であって、男女の比はほぼ1:2(85:178)の割合であった。

iv. 画き方

特に対象とするのは、建物及び構造物であるが、その他の要素も画かせるようにした。また、イメージ・マップは、自分の記憶だけで、自由に画かせ、また、マップ内の構造物等の名称の知れる物にはその名称を、判然としない物には単に、「古い家」、「鉄筋の建物」という風に建物の性質を書く様にさせた。

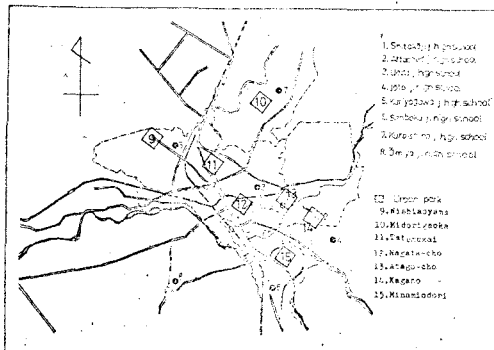


図1. 盛岡市における中学校とメッシュの位置

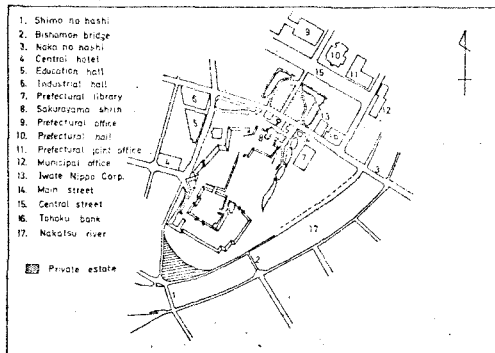


図2. 盛岡城城址公園の現況

